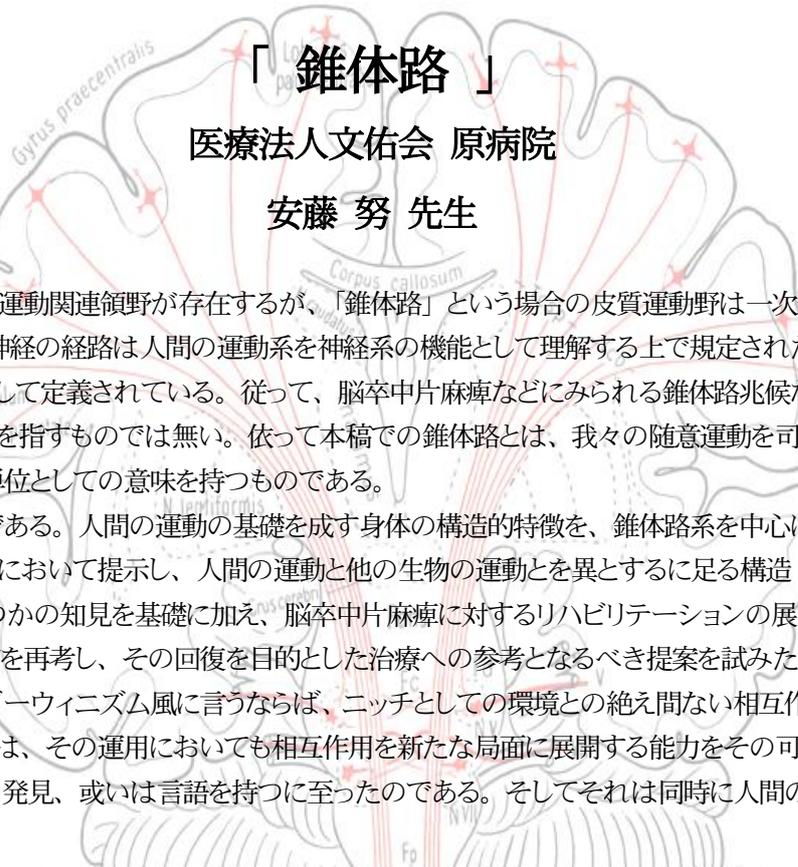


季節の勉強会 ～冬の陣～のご案内

去る、11月24日に行われました季節の勉強会～秋の陣～「クリニカルリーズニング」が大盛況に終わり、臨床における考え方にも少し変化があったのではないのでしょうか。

興味深い内容となった季節の勉強会～秋の陣～に引き続き、季節の勉強会～冬の陣～を下記の日程にて開催致します。今回の勉強会では福岡県の医療法人 恵光会 原病院の安藤努先生を講師にお招きし「錐体路」をテーマに、日々直面する患者様の病態の理解に役立てる内容を学習する機会にしたいと考えています。今回も他部門からはもちろん院外からの参加もお待ちしております。ご多忙とは存じますが多くの皆さんの積極的な参加をお待ちしております。



「錐体路」

医療法人文佑会 原病院

安藤 努 先生

周知の通り大脳には多数の運動関連領域が存在するが、「錐体路」という場合の皮質運動野は一次運動野（古典的運動野）を指す。即ち、錐体路という神経の経路は人間の運動系を神経系の機能として理解する上で規定されたものであり、ヒトにおいては随意運動を司る神経系として定義されている。従って、脳卒中片麻痺などにみられる錐体路兆候などは必ずしもこの「錐体路」に厳密に限局する病変を指すものではない。依って本稿での錐体路とは、我々の随意運動を司る中心的位置づけを担う神経経路の構造的かつ機能単位としての意味を持つものである。

構造は機能の形態的側面である。人間の運動の基礎を成す身体の構造的特徴を、錐体路系を中心に筋・骨・関節系や神経系、他の生物とそれらの比較において提示し、人間の運動と他の生物の運動とを異とするに足る構造・機能的な違いについて考察する。また、これらいくつかの知見を基礎に加え、脳卒中片麻痺に対するリハビリテーションの展開という視座から、錐体路病変における随意運動障害を再考し、その回復を目的とした治療への参考となるべき提案を試みたいと考える。

人間の運動の進化を神経ダーウィニズム風に言うならば、ニッチとしての環境との絶え間ない相互作用の結果として、この身体を有するに至った我々人間は、その運用においても相互作用を新たな局面に展開する能力をその可能性として有した。それ故に、直立二足歩行や道具の発見、或いは言語を持つに至ったのである。そしてそれは同時に人間の個体発生における発達もまた同様であるといえよう。

人間の運動をこのように捉えるならば、例えば片麻痺への治療展開の方略となる核は自ずと決定される筈である。つまり、麻痺からの回復とは、その身体が環境にどのような意味を与え、それを如何に解釈し得るのか？ということに外ならないのである。同様に、随意運動の獲得という観点から、この「随意」という言葉を捉えるとき、そこには文字通り「意味や意思」が内在されていることに改めて気づかされる。運動には正に意が付随するのである。

運動障害からの回復というベクトルを決定する大きな要因には、「志向性を内在した運動への主体的な希求」の存在が不可欠なのである。従って、我々リハビリテーション専門家の治療とは、それが意識化され常に具現化されたものでなければならぬことは、自明の理であると考えます。

- Dp Decussatio pyramidum;
- Fe Fibrae cruciantes;
- Fd Fibrae directae;
- Fp Fasciculi pyramidici;
- N V Nucleus originis nervi trigemini;
- N VII Nucleus originis nervi facialis;
- Pl Pyramiden-Seitenstrangbahn (Tractus corticospinalis lateralis);
- Pe Pyramiden-Vorderstrangbahn (Tractus corticospinalis ventralis);
- Re Radix ventralis;
- Tb Tractus corticobulbares;
- Tsp Tractus corticospinalis;

日時：平成24年3月10日(土) 13:00～16:30

13:00～14:30 『錐体路 機能構造とその概念』

14:40～16:10 『錐体路障害を考える』

16:10～16:30 質疑応答

場所：愛宕病院 3病棟1階 リハビリテーション室

【問い合わせ】 電話番号 088-823-3301 リハビリテーション部 沖田学 か 平谷尚大までご連絡下さい